

## 総合評価 (令和4年度)

今回から、保育内容等の自己評価に合わせて「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を実施し保育士等による自らの子どもへの接し方を振り返った。日頃より「子どもにとってどうか」という視点からよりよい保育のあり方を考えようと努めているが実践ではどうなのか。評価者が自分・他者であってもよいので各々に意見を書いてもらったところ様々な回答があった。

—「人権擁護のためのセルフチェックリスト」より抜粋—

### (1)『子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり』について

- ・[子どもを尊重する]は十分理解しているが保育士ばかり問われるのはどうか。
- ・乳幼児期ということもあり必要以上に援助しすぎて言葉かけが多くなってしまっていないか。
- ・子どものタイミングで排泄を促しているがそれが子どもの負担になっているのではないか。等

### (2)『物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉かけ』について

- ・イヤイヤ期の子どもへの言葉かけが難しく感じる。どこまで受け止め子どもの主体性を尊重するのか戸惑うことが多々ある。等

### (3)『罰を与える・乱暴なかかわり』について

- ・頭をポンポンと触ったつもりだが周りに頭を叩いているように言われた。
- ・脅かしたり強制的にならないような言葉かけを心がけているが危険を感じた時に少し強い口調になってしまい怖がらせてしまったことがある。等

### (4)『一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり』について

- ・遅くまでお迎えを待っている子どもの保護者のことを否定するような言葉を使わないようにしている。等

### (5)『差別的なかかわり』について

- ・男の子だから、女の子だから、という言葉を使わないようにしている。等

「保育内容等の自己評価」の総評では、長引くコロナ禍で保育士等は、常に感染症予防に努め従事していた。また、守秘義務については、園児や保護者のプライバシーを守り十分注意し合って保育にあたっていた。その結果よりよい保育環境をつくり安心安全な保育が出来たと思う。

「人権擁護のためのセルフチェックリスト」では、人権擁護の視点から保育の「良くない」と考えられる関わりの中で「イヤイヤ期」の乳幼児相手には難しい場面が多々あると感じている。乳児保育園では、ケースバイケースで臨機応変に柔軟に対応する必要があると思う。保育現場は、多様な「子どもたち」がおりその時々で「保育者」と「環境」が複雑に絡み合い出来事が起こるため一面的な見方で保育の良し悪しを判定されては保育者の主体性が失われ「保育の質の向上」には繋がらない。職員会議では、セルフチェックリストをまとめたものを元に保育士等が保育を振り返り、意見交換し今後の保育のあり方を見直した。一人ひとりの保育士等が主体的に保育に向かうことができるようまた、保護者や地域住民との相互理解につながるよう今回の自己評価の公表を活かしていきたいと思う。